

第9回 日本医療研究開発大賞

THE JAPAN MEDICAL RESEARCH AND DEVELOPMENT GRAND PRIZE

健康・医療戦略に基づき、わが国の医療分野において研究開発・実用化の推進に貢献した事例を表彰します



内閣総理大臣等による表彰

研究・事業の権威と信頼性が向上



国際的な発信

今年度は海外向け広報も予定



研究者のインセンティブ向上

組織内外のモチベーション向上



広報・情報発信の強化

内閣府・関係省庁・AMED等から発信



ネットワーク・連携機会

受賞者シンポジウムで産学官とつながる



社会実装・資金調達の後押し

受賞をきっかけに事業化など次のステップへ

日本医療研究開発大賞とは

大学、公的研究機関、企業等における医療分野の研究開発やその成果の実用化において、画期的・重要な成果を収める、先導的な取組を行うなど、研究開発の推進に多大なる貢献をした事例に関し、その功績をたたえることにより、国民の関心と理解を深めるとともに、研究者等のインセンティブを高めるための賞です。「健康・医療戦略(閣議決定)」および「医療分野研究開発推進計画(健康・医療戦略推進本部決定)」の下、平成29年度より実施しています。

募集期間

2026年

6/3 (水) - 7/17 (金)
17:00

大学、公的研究機関、企業等の皆さまからの自薦とともに、VC・CVCなど、研究開発の担い手を支援・応援する皆さまからの他薦も歓迎しております。ぜひ奮ってご応募ください。

一般枠(企業・研究機関・アカデミア向け)

- 🏆 内閣総理大臣賞 (1件)
- 🏆 健康・医療戦略担当大臣賞 (1件)
- 🏆 厚生労働大臣賞 (1件)
- 🏆 経済産業大臣賞 (1件)
- 🏆 文部科学大臣賞 (1件)

スタートアップ枠

- 🏆 スタートアップ大賞 (1件)
- 🏆 ファイナリスト(奨励賞) (数件)

※上記の賞のほか、日本医療研究開発機構(AMED)理事長賞を数件表彰する予定です。AMED理事長賞は、これまでにAMEDが支援を行った事例から選考します。

第8回授賞式の様子 (首相官邸にて)



主催：内閣府



応募資格(一般枠)

- 医療分野において研究開発やその実用化を行っている法人または個人
※ 人材育成、基盤的な技術の開発、スタートアップ等の事業化支援などの研究開発のための環境整備や研究開発成果の普及の取組を含みます
- 我が国に拠点があり、我が国において研究開発や製品・サービスの提供を行っている
※ 既に国家栄典(叙勲、褒章)受章者は対象外となります
※ 1件あたりの入賞者数は3団体(3名)までとします

審査基準(一般枠)

- 革新性・先導性 医療分野の研究開発・実用化において画期的・重要な成果を収めている、あるいは先導的な取組を行っている
- 社会への貢献 科学技術の振興、医療福祉の向上、経済産業の発展等に寄与している

(参考)第8回選考委員

※肩書は2026年1月時点

永井 良三 自治医科大学 学長	金田 安史 大阪大学感染症総合教育研究拠点 特任教授(常勤)
小柳 智義 京都大学医学部附属病院 特定教授	曾山 明彦 一般社団法人ライフサイエンス・イノベーション・ ネットワーク・ジャパン 常務理事
辻 篤子 科学ジャーナリスト	鄭 雄一 東京大学 教授
松本 吉郎 公益社団法人日本医師会 会長	※第9回の審査委員は一部変更になる 場合があります。

第8回日本医療研究開発大賞 受賞者の声

内閣総理大臣賞

「EZH1/2エピゲノム制御を標的とするがん治療薬の創製」
山岸 誠 准教授（東京大学 大学院新領域創成科学研究科）、第一三共株式会社
過去の受賞例を拝見しても、**挑戦的な研究とその成果を積極的に評価していただける賞**だと感じています。（山岸氏）
受賞後は、社内外の多くの方からお声掛けをいただき、**研究そのものや創薬・開発の考え方について対話する機会**が一層増えました。（第一三共株式会社）

厚生労働大臣賞

「シデロフォア抗菌薬の開発を通じた 薬剤耐性菌感染症対策への貢献」
塩野義製薬株式会社
研究開発は短期間で成果が出るものではありません。だからこそ、このように**外部の客観的な評価を受け、成果として認められたことを誇り**に思います。（塩野義製薬株式会社）

健康・医療担当大臣賞

「心臓病の手術を受ける子どもたちと共に生きる ハイブリッドニット」
根本 慎太郎 教授（大阪医科薬科大学 医学部 外科学講座胸部外科学）、
帝人株式会社、福井経編興業株式会社
AMEDから多大なご支援を受けた私たちの研究開発が、**新しい形の有機的な産学官連携**による事業化で広く患者に届くようになり、真のイノベーションの成功に至ったことを提示したいと考え、応募しました。（根本氏）

経済産業大臣賞

「スマホでつなぎ命を救う！脳卒中遠隔医療システムの世界的普及」
高尾 洋之 准教授（東京慈恵会医科大学）、株式会社アルム、株式会社ディー・エヌ・エー
本システムが、日本でももっと普及してほしいと思い応募しました。**受賞後は問い合わせなどが増え**、一般市民にも普及してきたと思います。（高尾氏）

文部科学大臣賞

「造血器腫瘍遺伝子パネル検査の開発」
片岡 圭亮 教授（慶應義塾大学医学部内科学（血液）教授、国立研究開発法人国立がん研究センター
研究所 分子腫瘍学分野 分野長）、大塚製薬株式会社
受賞後は、**社内外での注目度も高まり、新たな連携や次の応用展開に向けた議論**が活発になるなど、活動の広がりを感じています。（大塚製薬株式会社）

本賞のスケジュール

応募準備

① 公募要項を確認
② エントリーシートをダウンロード・記入
③ 記入したエントリーシートをメール提出
※ 一般枠・スタートアップ枠で様式が異なります
※ 他薦の場合は、被推薦者へ事前にご連絡ください

公募ページはこちら
<https://www.mizuhobank.co.jp/corporate/mhri/consulting/news/2026-n0008/index.html>
提出締切:2026年7月17日17:00

審査

事務局・関係府省による予備選考のうえ、有識者による選考委員会を実施します。

受賞者は公募ページにて公表します。

表彰

受賞者決定後、首相官邸にて表彰式を行います。

情報発信

受賞者を紹介するパンフレットを公開・発信します。

※今年度より海外にも発信予定。